

I 水産物の価格動向

1 総論 ～全般的に「前年並みから高め」～

- 全般的には、「前年並み」から「高め」の傾向となっている。鍋物材料も同様の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
新型コロナウイルス感染症の規制解除による急激な需要増加のため、外食関係（居酒屋、料理屋等）で扱う製品や冷凍輸入品、いくら、イカ製品等が高騰した。
- その他
タラバガニが米アラスカの自然保護のため禁漁となり、原料の搬入が無かった影響で価格が高騰した。
また、世界中の和食ブーム及び健康志向の高まりにより、水産物の需要が先進国のみならず新興国にも広く浸透したため、世界中で取り合いとなり、価格の高騰に繋がっている。

2 水産物の価格の見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	ぶり（養殖）	稚魚の数量が少なく在池量も少ないため高値。
2	はまち（養殖）	稚魚の数量が少なく在池量も少ないため高値。
3	まだい（養殖）	稚魚の数量が少なく在池量も少ないため高値。
4	まぐろ（脂身）	コロナ禍で出航できなかった影響及び海水温の上昇の影響により、水揚量が減少傾向。良品が少なく、脂ののったまぐろがいる漁場に入札が集中するため、高価傾向。
5	まぐろ（赤身）	コロナ禍で出航できなかった影響及び海水温の上昇の影響により、水揚量が減少傾向。数量が極端に少なくなり、高値で推移。
6	ふぐ	主要産地の熊本での水揚げ量が少なく、品薄になり価格が高騰。
7	煮ダコ	アフリカ産のタコは漁獲量が少なく、欧米・中国で需要拡大のため高騰している。
8	タラバガニ	米アラスカでの禁漁の為、ロシア産の相場が高騰。
9	甘えび	ロシア産の漁獲量減少の中、中国の強力な買い付けによる日本の買い付けに伴い、国内在庫が大幅に高騰。カナダ、北欧産も準じて高騰。
10	ブラックガ -	為替の円安傾向と、アメリカ、中国による強力な買い付けに伴い市況価格が高騰。
11	いくら	主要な輸入先であるアメリカ国内での消費が多くなり、日本への輸出が少なくなった。繰越在庫がないため、水揚げ地での取引価格から既に高値となっている。

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	いか	来遊量が少なく、水揚げも少ないため、やや高値。
2	塩ざけ	昨年度より水揚げは若干少なく、雌の価格が上昇傾向にあるため、価

		格全体が引き上げられ、やや高値となっている。
3	酢ダコ	アフリカ産・北海道産共にタコは漁獲量が少ないため、やや高値。
4	数の子	越年在庫が少ない影響と新型コロナウイルス感染症の影響で中国での加工作業が遅れ、やや高値となった。
5	すじこ	いくらと同様水揚げ地での取引価格が高騰したため、商品価格に上乘せされたことにより、やや高値。

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	あじ	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。
2	サバ	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。
3	ぶり(天然)	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。
4	まだい(天然)	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。
5	かれい	天候によるが、水揚量は前年並みで推移。
6	かき	順調に入荷があるも料理屋等の注文が少ないため、単価は平年並み。
7	たらこ	コロナ禍の影響で原料の搬入が減少したが、価格は前年並み。
8	めんたいこ	コロナ禍の影響で原料の搬入が減少したが、価格は前年並み。
9	かまぼこ	昨年並み。世界的なすり身の需要増による原料価格の上昇、物流・人件費の上昇で、平年よりも値上げ傾向。
10	伊達巻き	昨年並み。世界的なすり身の需要増による原料価格の上昇、物流・人件費の上昇で、平年よりも値上げ傾向。

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目(価格下落が概ね1割以下のもの)

1	まだら	天候によるが、水揚量は前年並みからやや多めで推移しているため、やや安値。
---	-----	--------------------------------------

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目(価格下落が概ね1割を超える見通しのもの) 該当品目なし

II 野菜の価格動向

1 総論 ~全般的に「やや安めからやや高め」~

- 前年と比較すると概ね「やや安めからやや高め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
コロナ禍により業務加工全般で需要が大きく減っている。天候不順により夏場まで一時的に相場が高かったものの、天候が安定後は単価安にて推移。(キャベツ、ネギ類は継続的に安値推移)
- その他
相場安が続いているため、出荷調整が行われている品目もあるので、年末に向けては、現状価格の安いものも一時的にあがる可能性もある。ビニールハウスで栽培

される野菜は原油高の高騰で重油、資材の高騰により一部品目で高めなものも散見する。

2 野菜の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	たまねぎ	畑へ移した後の高温干ばつにより、全体的に小玉での仕上がりとなった。収穫量も平年を大きく下回ったため高値傾向。
2	ばれいしょ	畑へ移した後の高温干ばつで一株に着果する球数が増え、全体的に小玉での仕上がりとなった。収穫量も平年を大きく下回ったため高値傾向。
3	三つ葉	年末の切三つ葉の不足予想から糸三つ葉も需要増により高値予想。

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	小松菜	茨城県内では、小松菜からほうれん草に移行している産地が多く、生産減少のため、出荷が前年より少なくなり、やや高値。
2	春菊	現状豊作傾向。年末の気温にもよるが、寒波になれば数量が若干減り、高値傾向に。
3	ほうれんそう	群馬県産のほうれん草の入荷が少なくなってきた。全体的に出荷量が少なめだが、野菜相場全体に引っ張られて単価はさほど上がらない予想。
4	レタス	各産地の作柄は良好だったが、全体量は前年並みか微減のため、値段はやや高め。
5	きゅうり	天候により、生育出荷の変動が大きく単価も不安定。コロナ禍における業務用需要の減少や重油高の影響で価格が高騰する可能性も。
6	トマト	入荷は安定の予想。12月中下旬はクリスマス需要で以降も数量は潤沢も、やや高値。
7	なす	早めの出荷傾向や原油高の影響によるビニールハウスの加温不足で平年より小玉傾向。昨年より数量は少ない見込みのため、やや高値。
8	さつまいも	一部産地で病害があり、全体量がやや減少する予想のため、価格はやや高め。
9	里いも	生育順調により、年末需要期を前に早めの出荷傾向で現状はやや安いですが、年末需要期に出荷減となり、やや高めの値段となる予想。
10	やつがしら	作柄は良好だが、作付面積や生産者の減少から価格が上昇気味。
11	れんこん	生育期の日照不足の影響で、キズ等のない状態のよいものが少なく、小さめのものが多い。年末の需要期に向けて数量は少ないためやや高値。

(3) 前年と比べて同程度の品目

1	はくさい	豊作により安定出荷が続く予定のため価格は前年並み。
2	かぼちゃ	メキシコ産は出荷がやや遅れ気味だが、冬至の需要あたりから増加見込み。鹿児島県産は特に品質良好。価格は前年並み。

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	ブロッコリー	豊作傾向にあり、安定した出荷が見込まれるため、やや安値。
2	ピーマン	燃料の高騰により、各産地とも早めの出荷終了予定。九州産地は順調出荷。野菜全体の相場により価格はやや安め。

3	くわい	本年産は台風の被害もなかったため、価格はやや安め。生産者の高齢化により作付面積は年々減少傾向。
4	にんじん	好天により各産地豊作傾向のためやや安値。年末にかけても順調出荷予想。
5	えのき	コロナ禍による業務用需要の減による影響で価格はやや安め。
6	本しめじ	大手きのこメーカーの市場寡占化による安定供給のため、やや安値。
7	エリンギ	大手きのこメーカーの市場寡占化による安定供給のため、やや安値。
8	舞茸	免疫力商材としての商品力がやや落ち着き、需要減となる一方で、供給増となり、価格はやや安め。

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

1	キャベツ	10月、11月の天候不順で秋冬物の出荷が1週間遅れたが、現状は出荷安定。年末に向けて豊作傾向のため安値。
2	ねぎ	大きな被害なく生育順調で豊作傾向に加えて、過去2年高値相場により作付面積が増加したため、価格は安め。
3	ごぼう	生育順調で少し太めの物の出荷が多く見込まれ、安値。
4	だいこん	豊作傾向で出荷順調で安値推移。
5	生椎茸	国内で育てられた中国菌床の椎茸が国産品として大手量販店に大量に供給されており、需給バランスが崩れているため、安値。

III 果物の価格動向

1 総論 ～全般的に「高め」～

- 全般的に、「高め」の傾向となっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響
輸入商品については、海外での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う現地での農園労働者、港湾労働者の不足により、価格が高騰している。
また、輸送コンテナやチャーター船の不足や着地変更などによる延着など不安定な入荷が続く見込み。
- その他
果実は総じて例年より前倒しの出荷傾向ではあるが、生育期の天候不順等により生産量は多くない。輸入物については世界的に気象状況も不安定で、原油高騰の影響もあり、不安定な入荷予想（数量減、価格高、入荷不安定、品質不安定）となっている。

2 果物の価格見通し

(1) 前年と比べて高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割を超える見通しのもの）

1	オレンジ	輸入関税が例年より下がる予定も、円安の影響が大きく商社も輸入数量を抑えている。コロナ禍、円安、原油高で、運賃負担と人件費増の影響もあり、高値となっている。
2	柿	昨年比15%程度と出荷量が非常に少ない見込みのため、高値。
3	グレープフルーツ	フロリダ産の作柄も悪く価格高により、入荷は昨年比10分の1と激減している。オレンジと同様に円安、原油高で、運賃負担と人件費増の影響もあり、高値となっている。

4	りんご	産地の降雨量が少なかったことに加え、雹（ひょう）害の影響で出荷量が減少し高値。味と糖度は平年並みだが小玉傾向。
5	レモン	緊急事態宣言解除（11月）により、業務系の需要が増加した。円安、原油高で、運賃負担と人件費増の影響もあり、高値。

(2) 前年と比べてやや高い傾向にある品目（価格上昇が概ね1割以下のもの）

1	いちご	早めの出荷予想であったが、苗を畑に移す時期の天候不順により、各産地で生育にばらつきが発生し、価格も不安定で全体的にやや高めに推移する予想。
2	みかん	産地の8月の降雨（長雨）により、キズ等なく状態の良いみかんが平年より10～15%程度少ない。黒点病等の被害が多く、数量は平年の65～60%程度となり、やや高値。

(3) 前年と比べて同程度の品目

該当品目なし

(4) 前年と比べてやや安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割以下のもの）

1	バナナ	12月上旬から主要産地からの出荷が増量予定。また、キウイフルーツ等の競合する果実との兼ね合いで単価安に向かう模様。
---	-----	---

(5) 前年と比べて安い傾向にある品目（価格下落が概ね1割を超える見通しのもの）

該当品目なし

IV ガソリン・灯油の価格動向

- ・ 今年のカソリン価格ハ昨年同時期と比較すると約3割、灯油価格は約4割高くなった。原油価格高騰の主な原因ハ OPEC プラスの協調減産と、新型コロナウイルスの感染がいったん収まったことによる需要の急増によるとみられる。
- ・ 年末年始の価格は現在と変わらない予想。OPEC プラスの協調減産ハ微増に転じたものの、依然として緊縮状態にあり、原油価格は高値継続とみられる。また、新型コロナウイルスの新たな変異株の急拡大により、一時的に需要ハ減少に転じているものの、価格は高止まりの状況が続いている。
- ・ 年末年始の在庫については、ガソリン・灯油とも十分に確保されている。
- ・ 先進国においてはワクチン接種による感染抑制策が効果を出しており、世界経済ハ上昇に転じて需要ハ急増した。しかし、変異株の広まりにより景気の先行き不安ハ広まっており、原油価格は乱高下している状況である。

		今年のカ価格（対前年）	年末年始の見通し	在庫
1	ガソリン	高め	変わらない	十分にある
2	灯油	高め	変わらない	十分にある